

# 京焼・清水焼

## 【産地組合】京都陶磁器協同組合連合会

### （産地紹介）

始まりは平安時代以前に遡りますが、平安京の造営と同時に本格的に焼き物作りが始まりました。それ以来、京都は優れた陶工と名品を次々に輩出しています。17世紀には仁清（にんせい）や乾山（けんざん）という名陶工が現われ、19世紀には颯川（えいせん）が磁器の焼成に成功し、加えて木米（もくべい）、保全（ほぜん）、仁阿弥（にんなみ）等の名工らがめざましく活躍しました。明治時代に入り、ドイツ人の工芸家ワグネルを招いたことを機に、諸外国の技術が取り入れられ、京焼・清水焼はどんどん発達していきました。



伝統を重視した繊細、優麗、巧緻な器と、現代の暮らしに潤いを与えるにふさわしい斬新な器とが共存し、それぞれが独特の雰囲気を保っています。

京焼・清水焼の伝統的な技法・デザインを大切にしながら、新しい感覚のデザインやフォルムを取り入れた「和モダン」なうつわを見て頂きたいと思っております。これまでの京焼・清水焼に新鮮さや親しみやすさを更に加えたニューウェーブを目指しています。